

## 「パンを分かち合う」

2014年06月24日

主イエスは公生涯に入る前、悪魔から諸々の誘惑を受けたが、神の言葉に信頼して乗り越えたと伝えている。まず最初に、40日40夜断食して空腹になった時、悪魔は「神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうだ」という誘惑をしている。これに対し、主イエスは「『人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』と書いてある」と答え、退けている。

主イエスの言葉は、申命記8章3節の「主はあなたを苦しめ、飢えさせ、あなたも味わったことのないマナを食べさせられた。人はパンだけで生きるのではなく、人は主の口から出るすべての言葉によって生きることをあなたに知らせるためであった」から引用している。この言葉は、40年の荒れ野の放浪を終え、神が約束した乳と蜜の流れるカナンに入ろうとした時、モーセが民衆に対して、40年の苦難を総括した言葉とされている。飢え渴きを体験したが、その苦難を通して、人はパンだけでなく、神の言葉によって生きることを知らされたと言っている。

この言葉を読む時、私は金芝河の「飯が天です」という詩を思い起こす。「飯が天です 天を独りでは支えられぬように 飯はたがいに分かち合って食べるもの 飯が天です 天の星をともに見るように 飯はみんなと一緒に食べるもの 飯が天です 飯が口に入るとき 天を体に迎えます 飯は天です ああ 飯は みんながたがいに分かち食べるもの」。金氏は、韓国の軍政時代、飯が食えない民衆の飢えを代弁している。

ヨハネ福音書6章に、主イエスは五つのパンと二匹の魚で、五千人を満腹させた奇跡を記している。喜んだ民衆は主イエスを王にしようとした。パンと魚をたらふく食べさせてくれる人を王にしたいという願望は痛いほど理解できる。

選挙の時、たらふく食べさせてくれると思える人に投票する。安倍政権は豊かさを実現してくれると、支持率が高い訳であろう。人は皆、パンに向かってなびく。

中山智香子氏の『経済ジェノサイド フリードマンと世界経済の半世紀』を読み、衝撃を受けた。フリードマン学派は、徹底した市場経済を訴え、新自由主義と言われる 金もうけを至上とする政策を世界に発信し、実践した。中山氏は、新自由主義の半世紀にわたる経済政策が格差によるジェノサイドをもたらしたと分析している。ジェノサイドはドイツのナチズムなどが行った「集団殺戮」を指す。経済において、パン・飯に与れない集団殺戮が起こっていると、チリを例にあげて詳しく実証している。しかし、チリの例を見るまでもなく、私たちの周りで、新自由主義の暴風雨が世界を席卷し、生存を保障しないジェノサイドに遭遇している状況を見ることができないのではないかと。

人はパンなくしては生きられない。パン・飯の奪い合いが歴史であった。しかし、主イエスは「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」、神の言葉が「生」を保障すると言われる。神の言葉とは天地を創造した神があなたを愛し生んだ、それゆえ「共に生きよ」ということである。グローバル化した巨大な力で動いている世界の現状を知り、無力感に襲われるが、パン・飯を分かち合って、天を体に迎えたいと切望する。